



(東証1部:6848)

東亜ディーケーケー株式会社

平成28年3月期決算補足説明資料

平成28年5月

- 売上高は、計測機器事業(国内微増、海外増進)と不動産賃貸事業(増収)で増収
- 利益は、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも対前期比で増益
- 経常利益率は9.9%(前期9.2%)、ROE(自己資本利益率)7.6%(前期6.5%) 共に改善
- 単月黒字化**79ヶ月**連続記録達成更新中 (平成21年9月から6年7ヶ月)

(単位:百万円)

	H27.3 実績	H28.3 実績	前期比増減	
			金額	%
売上高	14,066	14,326	260	1.9
営業利益	1,265	1,367	102	8.1
経常利益	1,287	1,418	130	10.2
当期純利益	759	931	172	22.7

(注)表示単位未満を切り捨て

(1) 計測機器事業(増収・増益)

売上高14,062百万円(1.8%増)、経常利益1,256百万円(10.3%増)

- ・ 国内は、中国をはじめとした新興国経済の減速や資源安に加え、年初から為替相場が急激に円高に転じるなど企業業績の悪化懸念が強まり、先行き不透明な状況の中、①環境・基本プロセス分析機器は、上下水道用分析計の減少はあるも基本プロセス計測器及び環境用水質分析計が増加、②科学分析機器は新製品のXシリーズが寄与し増加したがポータブル分析計は前期大口特需をカバーできず減収、③医療用関連機器は新製品の投入で寄与し増収、④産業用ガス検知警報器の顧客需要の掘り起こしで著増、⑤電極・標準液は微増、保守・修理は微減、部品・その他は増収
- ・ 海外は、受注活動を積極的に展開した結果、中国(環境用水質)を中心に好調裡に推移し増収
- ・ 利益面は、売上高の増加と売上原価率の改善で販管費の増加を吸収し増益

(2) 不動産賃貸事業(増収・増益)

売上高264百万円(4.3%増)、経常利益161百万円(9.6%増)

(3) 合計(増収・増益)

売上高14,326百万円(1.9%増)、経常利益1,418百万円(10.2%増)

經常利益増減分析



(単位:百万円)

増収成果
+104

売上原価影響
+14

販売費及び
一般管理費増
 $\Delta 15$

営業外損益
+28

合計
+131

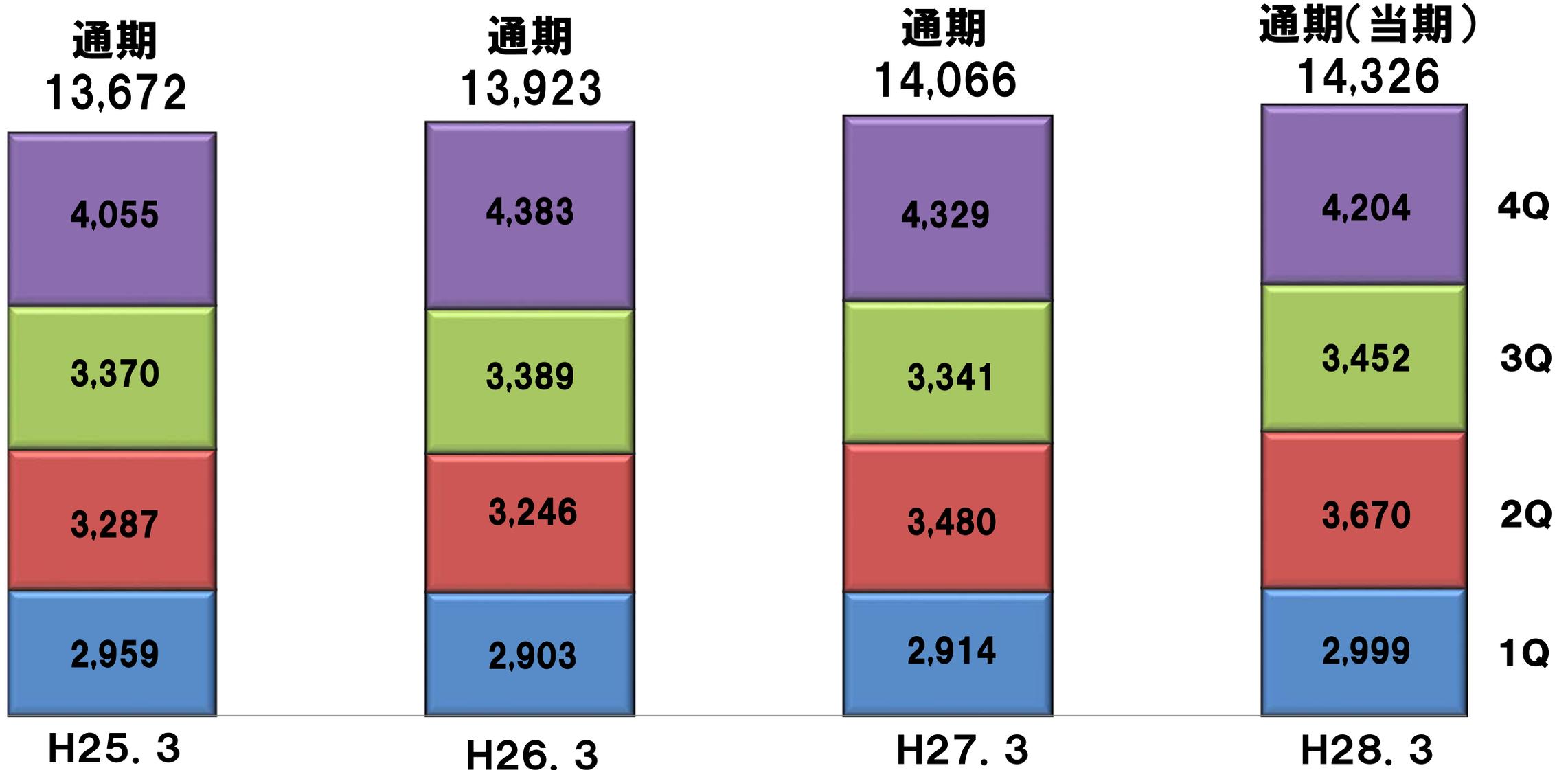
H27.3
經常利益
1,287

H28.3
經常利益
1,418

売上高推移

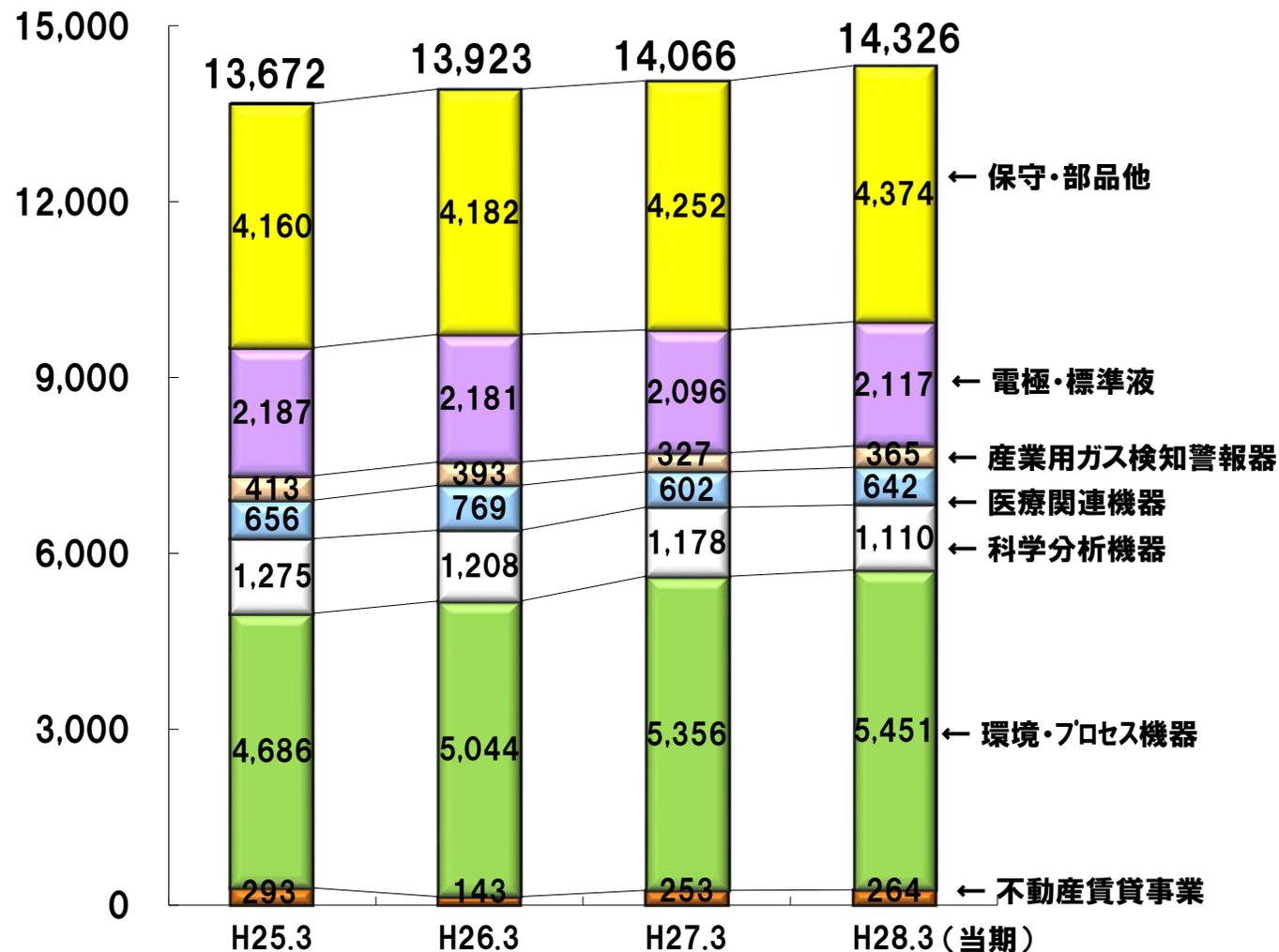


(単位:百万円)

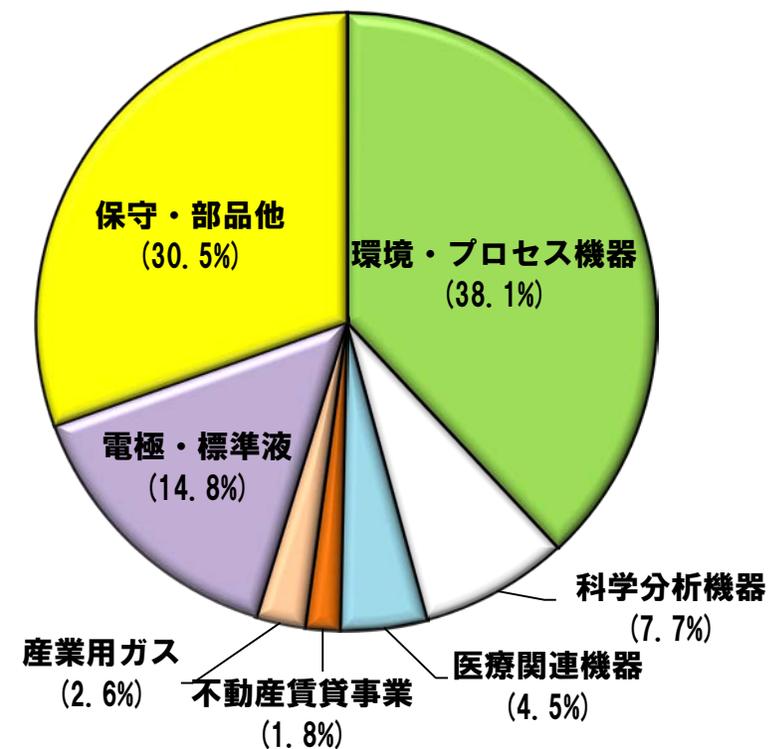


売上高推移

(単位：百万円)



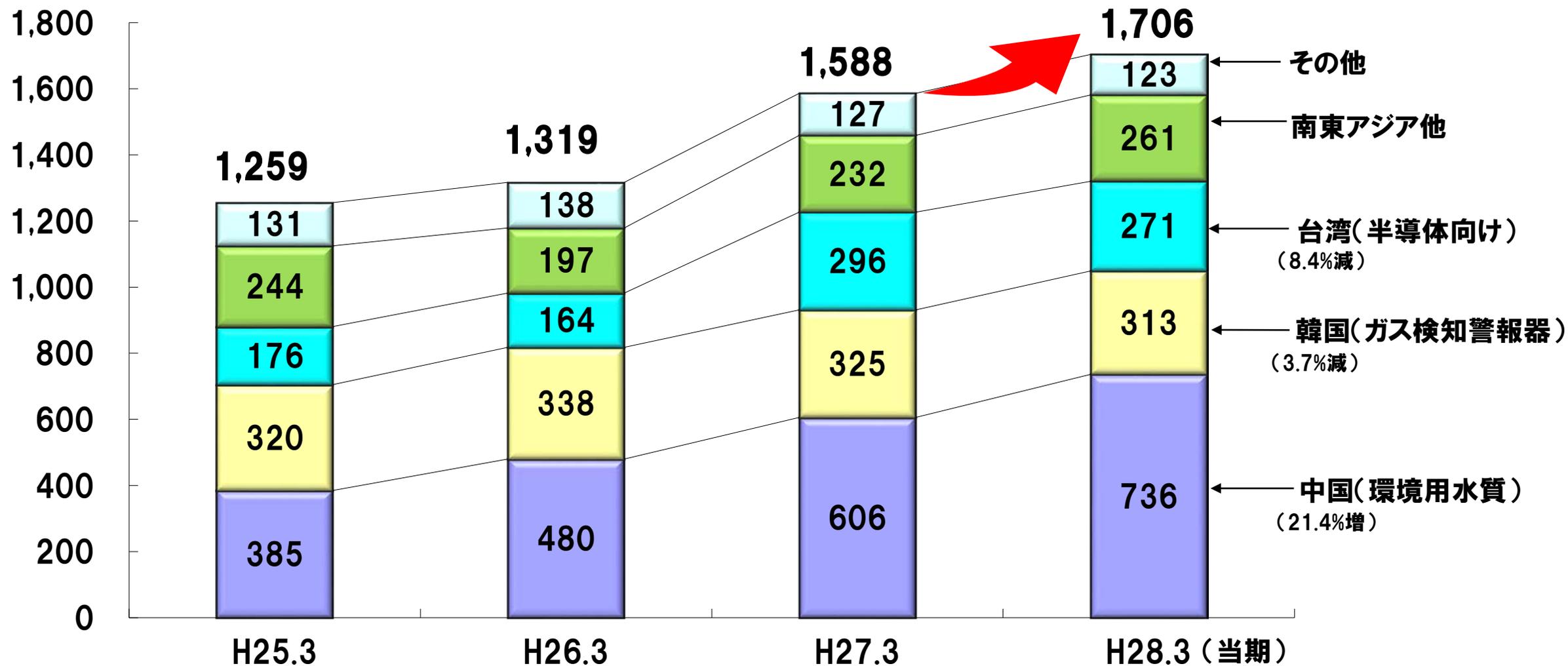
売上高構成比 (当期)



海外売上高推移

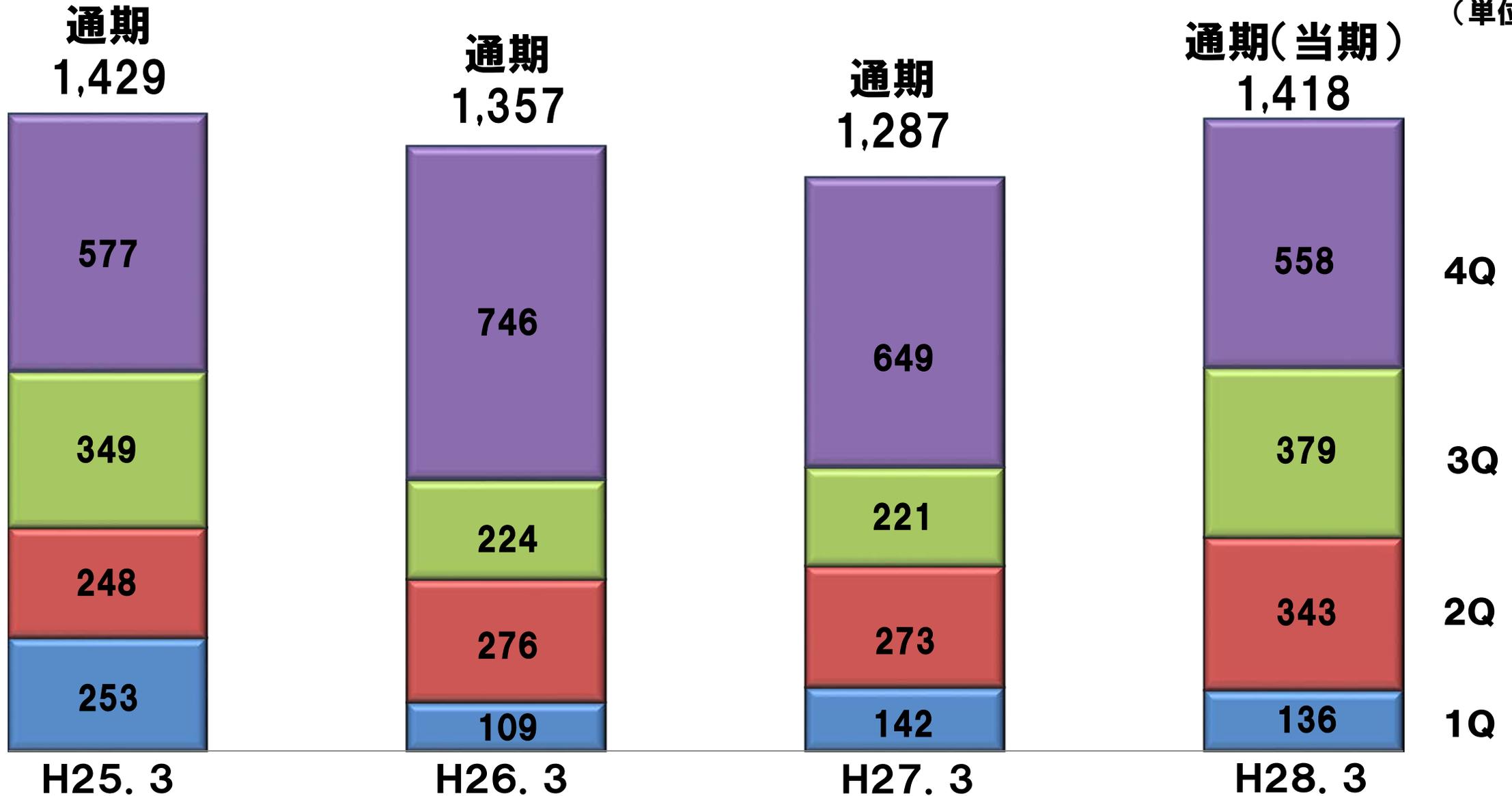
対前期比+7.4%

(単位:百万円)



經常利益四半期別推移

(單位:百万円)



貸借対照表及び損益計算書(要約)



貸借対照表

(単位:百万円)

	前期 27年3月末	当期 28年3月末	増減額
(資産の部)			
流動資産	12,539	12,976	436
固定資産	5,680	5,675	△4
有形固定資産	3,219	3,115	△103
無形固定資産	478	391	△86
投資その他の資産	1,982	2,168	185
資産合計	18,220	18,651	431
(負債の部)			
流動負債	3,037	2,923	△113
固定負債	3,143	3,267	124
負債合計	6,181	6,191	10
(純資産の部)			
株主資本	11,289	12,003	713
資本金	1,842	1,842	—
資本剰余金	1,297	1,297	0
利益剰余金	8,161	8,875	713
自己株式	△11	△11	△0
その他の包括利益累計額	748	456	△292
純資産合計	12,038	12,459	420
負債純資産合計	18,220	18,651	431

損益計算書

(単位:百万円)

	前期 26年4月1日 27年3月31日	当期 27年4月1日 28年3月31日	増減額
売上高	14,066	14,326	260
売上原価	8,482	8,625	142
売上総利益	5,583	5,701	117
販売費及び一般管理費	4,318	4,333	15
営業利益	1,265	1,367	102
営業外収益	55	66	10
営業外費用	33	15	△18
経常利益	1,287	1,418	130
特別利益	0	—	△0
特別損失	1	5	(※)4
税金等調整前当期純利益	1,285	1,412	126
法人税等	526	481	△45
当期純利益	759	931	172

(※) 特別損失の4百万の内3百万円は筑波営業所閉鎖に伴う減損損失。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 26年4月1日 27年3月31日	当期 27年4月1日 28年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,259
投資活動によるキャッシュ・フロー		△358
財務活動によるキャッシュ・フロー		△360
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額	539	205
現金及び現金同等物の期首残高	2,813	3,353
現金及び現金同等物の期末残高	3,353	3,558

平成29年3月期業績予想



当年度の当社を取り巻く経営環境は急激な為替変動や中国経済の減速、資源安等企業業績の悪化を招く恐れが強く、先行き不透明な状況が続いている。

このような厳しい業況の中、当社グループは世界的に環境保全に関する需要は高まりつつありますので、適切な営業および技術サービス活動に注力すると共に、開発戦略、海外戦略、人財開発に集中投資する積極的な経営展開をしている。

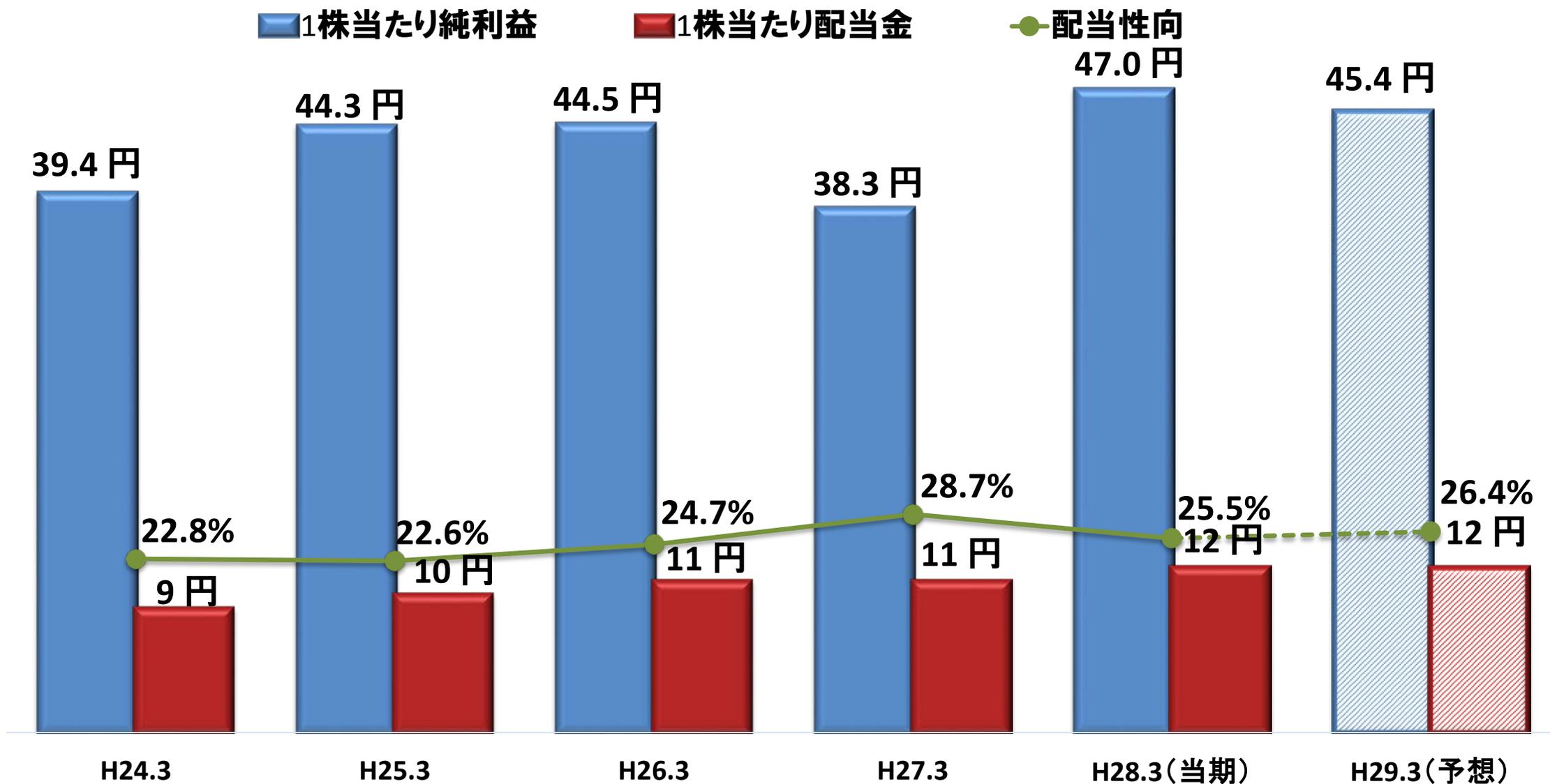
具体的には、国内では環境省第5次水質総量規制時に導入した機器の更新需要が本格化すると共に、海外では中国をはじめとするアジア地区に積極的な営業活動をしていく計画でいる。

しかし、日銀のマイナス金利政策による退職給付債務負担増等の諸経費増もありますので、更なる改革運動を推進することにより、これらを吸収し、一定の利益を確保する所存である。

(単位:百万円)

	H28.3 実績	H29.3 予想	増 減	
			金額	%
売上高	14,326	14,500	174	1.2
営業利益	1,367	1,200	△167	△12.2
経常利益	1,418	1,300	△118	△8.3
当期純利益	931	900	△31	△3.3

株主還元



中国企業2社と環境用大気測定装置の技術合作と販売提携で合意

「重慶川儀自動化股份有限公司」

平成28年3月14日、中国大手の計測器メーカーであり国営企業でもある「重慶川儀自動化股份有限公司」(本社:重慶市)と、環境用大気測定装置の技術合作及び販売提携契約を締結しました。

中国全土に強力な販売ネットワークと技術サービスを持つ同社との提携により、今後の中国での環境ビジネスの拡大を図ります。



「北京牡丹聯友環保科技股份有限公司」

平成28年4月23日、中国で排ガス測定器市場で高いシェアを持つ「北京牡丹聯友環保科技股份有限公司」(本社:北京市)とVOC(揮発性有機化合物)排出規制に適應した測定器の技術協力及び販売提携に合意し、北京市内の釣魚台国賓館で調印式を執り行いました。

当社は経験豊富な環境保全技術を提供し、中国でのVOC規制市場への参入を図ります。



1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

＜お問い合わせ＞
東亜ディーケーケー株式会社
経営企画部 企画・IR課

電話:03-3202-0242
メール:ir@toadkk.co.jp
URL:http://www.toadkk.co.jp/